

重層的支援体制整備事業 担当者の皆様へ

(令和5年5月更新)

超解説（10分で分かる） 重層的支援体制整備事業の取り組み方 (愛知県 稲沢市社協の取り組み方 編)

- * 稲沢市は、市役所（福祉課）と社協（福祉総合相談窓口）が協働して重層的支援体制整備事業を推進しています。 **（令和4年度から実施）**
- * この資料は、愛知県社協主催の市町村社協情報交換会（令和4年10月26日）でご紹介させていただいた資料（一部改）です。

重層は市町村の『創意工夫』で取り組むもの！？

『だが、それがいい！』

重層の取り組み方には、正解がありません！

この資料でご紹介させていただくのは、

現場の重層担当者としての取り組み方（楽しみ方）です！

批判的思考でご覧いただき、皆さんの参考になれば幸いです。

重層的支援体制整備事業の推進とは、

（重層担当者が取り組んでいくことは、）

主要5事業（特に3本柱）の強化（改善）と 一体的連動を進めていくこと

＊3本柱（相談支援、参加支援、地域づくりに向けた支援）

＊別添『超解説 重層的支援体制整備事業リーフレット（稲沢市の関係者向け）』

『稲沢市e nモデル（多職種連携のフロー図）』をご覧ください

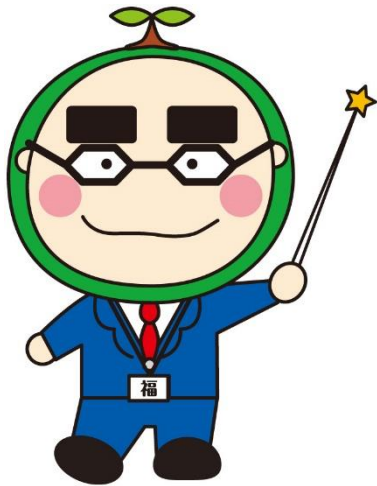
（上記は、稲沢市社協のホームページからダウンロードできます！）

【重層担当者の解説】

重層は 新しい事業や仕組みを創ることではありません！

重層担当者が仕掛けていくことは

『既にある仕組みをより良くし、それらを連動させていく』 こと



つまり、

①行政や関係機関どうしの連携強化、

②関係者一人ひとりの意識改革

(当事者意識の醸成) を図っていくことです！

【重層担当者の心の声】

行政や関係機関どうしの連携強化？
関係者（職員）一人ひとりの意識改革？

本当にそんなことができるのか・・・



人の意識に働きかける業務（意欲喚起）は、超絶困難！

そもそも、説明くらいで『人の意識は変わらない！』

ならば、これから、どう仕掛けていくか・・・

重層担当者の役割は（私たちが意識していることは）

①重層の意義を関係者に伝え（周知啓発・研修会等）

②関係者の内発的動機（主体性と情熱）を喚起し

③みんなを仕組み創りに巻き込んでいくこと

【重層担当者の解説】

重層担当者の役割を日本一簡単に説明すると

『みんなを支援体制づくりに巻き込んでいくこと』



ひとりで多職種連携の支援体制図を描いたり
複雑・複合課題解決のフロー図を描くような

机上や会議室で出来るようなことは、

重層担当者の（真の）役割ではありません！

皆さんは、どう思いますか？

ここからは、具体的な取り組み方をご紹介します！

(私たちが実践している 『**重層推進の3ステップ**』をご紹介します)

ステップ① 内発的動機付けと基礎理解の徹底

ステップ② 情報収集（TTPA）と現状把握

ステップ③ 仮説形成と仮説検証（ここが醍醐味！）

ステップ① 内発的動機付けと基礎理解の徹底

まずは、担当者自身の『内発的動機』を高める！

- ・マニュアルも前例もないからこそ、担当者自身の『内発的動機』が必要！

重層は『やらされ仕事』で出来るレベルの仕事ではありません！

- ・重層を『やり遂げる』ためには『内発的動機』が必要不可欠です！

ステップ① 内発的動機付けと基礎理解の徹底

重層の基礎理解を徹底する

- ・ 自分が理解していないのに、他人に伝えることはできません！

理解とは『自分の言葉で中学生に説明できる』ということ

- ・ 基礎理解のおすすめサイト ⇒ 『地域共生社会ポータルサイト（厚労省）』

ステップ② 情報収集（T T P A）と現状把握

- ・ 先進地を視察して T T P 『A』（外側の把握）

先進地の取り組みを徹底的にパクって『アレンジ』することが重要！

視察で大切なのは『知ること』よりも『その担当者と繋がること』

- ・ 自分のまちの現状把握（内側の把握）

自分のまちを知らずして、支援体制をデザインすることはできません！

【重層担当者の解説】

T T P Aの『A（アレンジ）』が重要です！

先進地の取り組みをそのまま取り入れても機能しません！

なぜなら『地域特性が違う』から

だからこそ、我がまちに合わせて『A（アレンジ）』することが重要です！



視察は、先進地の担当者との繋がりが大きな財産になります！

私たちも、業務に行き詰った時、幾度となく助けてもらいました！

今でも、度々、ご相談させていただいております（感謝）

ステップ③ 仮説形成と仮説検証

(私たちは、このステップが『一番面白い』と実感しています！)

正解がないからこそ、仮説形成

- ・ ステップ①②を踏まえ自分のまちに最も適した形の支援体制をデザインします
- ・ 重層の形は1700通り、それぞれの『創意工夫』で支援体制を考えます
- ・ 担当者なりの目標（目指す形）と手段（仮説形成）を明確化させます

ステップ③ 仮説形成と仮説検証

（私たちは、このステップが『一番面白い』と実感しています！）

みんなを巻き込んで、実行と仮説検証を繰り返す

- ・一つひとつの困難ケースを通して支援体制をブラッシュアップしていく
- ・上手くいかなかったら、対話し、その都度、改善する（トライ&エラー）
- ・重層担当者は、評価方法の理論（例えばA + B + Cモデル）も理解する ← 超絶難しい！
参考書籍『重層的支援体制整備事業における評価活動のすすめ（CLC）』

実は、みんなで試行錯誤する『過程』こそが

『重層の推進（包括支援体制づくり）そのもの』なんです！

なので、

重層担当者が意識すべきは『取り組む過程』です！

皆さんは、どう思います？

重層的支援体制整備事業 担当者の皆様へ

市町村は違えども、同じ使命（悩み）を持つ者どうし
交流を深めませんか？（情報交換 大歓迎！）

まずは、お気軽にお電話ください！

愛知県 稲沢市 稲府町1番地（市役所東庁舎内）

社会福祉法人 稲沢市社会福祉協議会

福祉総合相談窓口（相談支援包括化推進員） 0587-32-1484

